

半田市議会議員

こいで よしかず 義の 市政あれこれ

62



発行日：2025年11月1日

発行所：愛知県半田市瑞穂町5-3-18

連絡先：愛知県半田市新池町2-201-22

半田市中心市街地活性化情報誌<HANDAS ON!>
HANDAS ON!
2025 SPRING / TAKE FREE

半田市の「中心市街地」ってどこなの？
過去から未来へ想いをつなぐ、「活性化」の今
行ってみよう！
中心市街地の有形資産「ココロコリン」
まちと楽でる、わたしの物語
原典 裕一 氏
編集 舞子 氏
監修 俊秀 氏

受け継いでいくまち
新しくなるまち
人が集うまち

歴史と文化を活用して

半田の魅力をフラッシュアップ

半田市創造・連携・実践センター

持続可能なまちづくり…

地方から都市部へ、人口の流出が続いています。中でも若年女性の流出は、人口減少に深刻な影響があり、県内でも七つの自治体に消滅の可能性があると云われています。要因は、幅広い就労機会の有無です。人口減少対策は自治体の最重要課題です。起業支援や定住促進などに、着実な成果が求められています。

住みたい、住み続けたいまちは

半田市でも起業支援を重要視して昨秋、半田市南末広町に「創造・連携・実践センター」が開設されました。同時に愛知県が名古屋市・鶴舞に開設した、ステーション・Aも同様の目的で開設されています。相互に連携を図り、活発に起業が行われることが期待されます。「住みたいまち」の条件は人それぞれですが、生活の糧は必須です。その意味でも就労の選択肢や起業支援は重要です。

選ばれるまちのコミュニティ

まちの魅力づくりは、既存資源のフラッシュアップから手がけてほしいと思います。



本年3月に特別委員会が提言した「歴史と文化を活用したまちづくり」もフラッシュアップ手法の一つです。委員会は、専門家や市民団体を交えた協議会を立ち上げ、地域の文化的資源を見直し「計画づくり」と「担い手の育成」をするよう提言しました。今年開催された市民討論会からも、同様の趣旨の提言を頂いています。様々な立場での関心の高まりを心強く感じています。

シティープロモーションも目標管理で

まちの魅力を発信し、移住を促す取り組みは地方都市でも重視されています。移住案内担当を置き、実績を出している自治体もあります。シティープロモーションはただ発信するのみでなく、目標管理を行って効果を検証する必要があります。移住政策を単なる競い合いではなく、暮らし方を提案する機会として捉えたいと考えます。

医療センタールート新設を期に
乗継ぎの改善で利便性上を...

さくらバス利用実績



地域交通は利用して守ろう!!

本年4月、市内吉田町に地域医療の中核施設となる知多半島総合医療センターが開院しました。これにより、本格的にむかえる高齢化社会の医療需要にも対応可能となりました。この開院に合わせ、名鉄知多半田駅から医療センターまで、南北2ルートのバス路線が新設されています。市民の認知度が高まれば、地域公共交通全体の利用拡大に繋がると期待しています。

利用を増やして課題の解消を!!



さくらバスは昨年のダイヤ改正以降、左上グラフのように利用が伸びています。最近では毎日60人以上の利用があり、小さなワゴン車はしばしば定員オーバーになっています。現状は、別車両が乗れなかった方の対応をしていますが、解消策が必要です。

解決策は更なる利用の拡大です!!

解決には、車両の大型化や増便など、輸送量の拡大が求められます。それには、利用者を増やすにはどうするかという視点が大切です。さくらバスの医療センタールートには衣料や飲食等の店舗、図書館・博物館などの施設もあります。まちぐるみで発展していくためには利用者の利便性を考慮した解決策を出す必要があります。コストや利便性など、市民の皆さまと課題を共有しながら進めることが重要だと考えます。



酪農臭気対策は、6次産業化も視野に入れた取組みを進めています。既に、エルファームの施設で花こころの技術を試験導入しています。今後、堆肥の品質評価を頂き、利用先の開拓などもふくめた普及と仕組みづくりを進めてまいります。

臭気対策は花こころの技術支援で

